

# Neo spotlight

- ネオ・スポットライト -

デザインが照らす  
地域の未来

Design shines a light on  
the future of the region.

## # 深掘りコラム

### 障害 × アート × 地域文化 福祉事業所がチャレンジする 新たな掛け算



©RIKU

毎年10月から12月に行われる赤い羽根共同募金運動では、長岡市内の街頭募金の際に配布されるポケットティッシュの封入ラベルに、昨年度から市内在住の障害のある方の手によるアート・ブリュット<sup>※1</sup>作品が使われています。彼らの創作活動を支援しているのが社会福祉法人中越福祉会です。利用者が日常的に作る絵や制作物から、「生のアート」を感じる作品を見出し、作品展への出展、アートをデザインとして使用した商品やイベントとのコラボレーションなど多様な形で発信してきました。さらに今年春には、長岡市の悠久山公園で行われた桜まつりに合わせ、地元名物でありながら茶屋の閉店で途絶えかかっていた「三色だんご」を中越福祉会が復刻<sup>※2</sup>。製造が障害者の就労支援につながる

ことや、パッケージにも一面の桜を描いたアート・ブリュット作品を使用したことで大きな話題になりました。同会の芸術文化支援を担当する精神保健福祉士、足立裕介さんは「障害とアート、さらに地域文化を掛け算していくことで、より面白い活動が生まれたり、広く障害福祉について知ってもらえるきっかけにつながるのでは」と語ります。アートを切り口に、障害者の新たな活躍の場を広げていく取り組みの今後が楽しみです。

※1アート・ブリュット……磨かれていない、生のままの芸術という意味のフランス語  
※2三色だんごはイベント限定商品のため、通年の取り扱いはありません

## # 地域の魅力を探そう

### 長岡にまつわる タイポグラフィ

# 消雪パイプ

(Originated in Nagaoka)

長岡発祥の消雪パイプは、冬の雪国の風物詩。雪国の暮らしをささえる「消雪パイプ」の文字をデザインしてみました。

担 ネオス齋藤

## # ネオス実績紹介

詳細はネオスのWEBまたはInstagramへ！



「一枚の板金からつくる未来」 動画  
CL: 株式会社池田機工



山本山高原ブルワリー ロゴ  
CL: 株式会社アグリたかの



大日養鯉場 パンフレット  
CL: 大日養鯉場株式会社



JAPEX シネアド  
CL: 石油資源開発株式会社 (JAPEX)



小さな生き物たちと育むお米 ロゴ  
CL: 長岡市



全国闘牛サミット in 長岡大会 ツール  
CL: 全国闘牛サミット in 長岡大会実行委員会



N サイクル ポスター  
CL: N サイクルプロジェクト



山崎醸造 新聞広告  
CL: 山崎醸造株式会社

取材協力: NOBI by SUZUKI COFFEE、株式会社 鈴木コーヒー、社会福祉法人中越福祉会 みのわの里ようこそ  
STAFF: アートディレクター: 山本 拓志/デザイナー: 小林 南穂/題字デザイン: 宮 未尋/エディター: 山本 嗣也  
ライター: 河内 千春/カメラマン: 山本 良 (DAY)  
発行元: 株式会社ネオス  
〒940-0084 新潟県長岡市幸町 1-3-10 パートナースプラザ内  
TEL: 0258-33-8836 MAIL: info@neos-design.co.jp

Neo Standard Design Production  
**NEOS**  
WEB Instagram

※「Neo spotlight」についてのお問い合わせは株式会社ネオスまで



「Neo spotlight」はデザインので地域ブランドやまだ知られていない地域の魅力にスポットライトを当て、紹介するフリーペーパーです。

#地域を創る、ブランドストーリー

NOBI  
by SUZUKI COFFEE

聞こえる人も

聞こえない人も

居心地よく。

共生社会を目指すカフェ

#Profile

倉又 司さん Kuramata Tsukasa

新潟県糸魚川市出身。

生まれつき聴覚障害があり耳が聞こえない。長岡市のろう学校の寄宿舎指導員として働いた後、「聴覚障害のある人となない人が寄り添って生きる社会づくりのきっかけになれば」という想いから、「NOBI by SUZUKI COFFEE」をオープン。

#聴覚障害者のためにできる事業を模索

さわやかな秋晴れの休日、カフェNOBIを訪問しました。入店して最初に目に入るのが「NOBIについて」と書かれたボードです。「ここは、耳が聞こえないオーナーが運営するカフェです。注文は全てメニューを指差してお願いします」の一文を確認して、カウンターへ。手話ができなくても大丈夫かな、との心配は全くの杞憂で、オーダーはすべて指差しだけで進みますし、スタッフの表情と身振り手振りがわかりやすいこともあって本当にスムーズ。ほっとした気持ちで椅子に座ると、カウンターでは倉又さんが丁寧にコーヒーを淹れている様子がうかがえます。BGMのない静かで落ち着いた空間では、手話で会話する人たち、小さなお子さんを連れたお母さんたちがコーヒーを楽しんでいます。コーヒーの出来上がりを倉又さんがジェスチャーで伝えてくれました。受け取って、香りのよいコーヒーをいただきました。



オーナーの倉又司さんは新潟県糸魚川市出身。長岡市のろう学校を卒業後、半導体メーカーの工場勤務を経て、ろう学校の寄宿舎指導員として勤めたのち、NOBIを開業しました。「最初からカフェを作ろうと決めていたわけではないんです」と倉又さん。「自分と同じ聴覚障害者のために、何か事業をやりたいと考え、起業支援センターCLIP長岡のセミナーを受けたときにサードプレイス(自宅でも職場や学校でもない第三の居場所)という考え方を知り、これだ!と。カフェなら自分のやりたいことにぴったりだと思いました。」こうして、耳が

2024年5月にオープンした NOBI by SUZUKI COFFEE は全国でも珍しい、声を出さなくとも指差しだけで注文できるサイニングカフェ®です。聞こえる人も、聞こえない人も、誰もが居心地よく過ごせるカフェにはさまざまなお客さまが集い、今日も静かな賑わいを見せています。今回はこの場所にスポットライトを当てていきます。※サイニングは手話のこと。

聞こえる人も聞こえない人も居心地がよく過ごせる、サードプレイスをつくるという目標が決まり、カフェ開業への夢が走り出しました。そうした倉又さんの思いに共感し、支援者となったのが、鈴木コーヒー代表の佐藤俊輔さんです。

# SUZUKI COFFEE との  
出会いと共鳴

「うちでやっているプロ向けのカフェ運営講座に、倉又さんからメールをいただいたのが最初のきっかけです。『ろうあで耳が聞こえない私も受講できますか』という内容で、これは直接会ってお話したいと思いました。彼が『一生懸命貯めたお金が300万円あって、これをカフェの開業資金にしたい』と言うので、金銭的に開業できないわけではないけれど、ビジネスとして生きていくのは非常に難易度が高いし、かつ彼の境遇を考えるとハードルが高いと正直に伝えました。(佐藤社長)。」

しかし話を続けていくうちに、倉又さんの語るビジョンが佐藤社長の心に響きました。



左: 倉又さん 右: 佐藤社長

# NEOS がお手伝いしました!

今回ネオスではロゴマークと各種店舗ツール(サイニングボード・手話イラストなど)のデザインのお手伝いをさせていただきました。手話でなくても指差しで気軽に注文できるサイニングカフェである NOBI。ロゴは指差しポーズの手とコーヒーの湯気のモチーフを組み合わせたデザインで表現しています。

NOBI  
by SUZUKI COFFEE

「彼の『この世の中は耳が聞こえることが前提に成り立っている社会だ』『耳が聞こえる人も、聞こえない人も関係なく、和気あいあいと過ごせるようなカフェ、そんなサードプレイスを作りたいんだ』という言葉に、僕は感動しちゃって。SUZUKI COFFEEの一番大事にしているパースが、『コーヒーの力で人々の人生を感動で満たす』なんです。彼の思いを実現することは、うちにとってはビジネス以上の価値がある。もっと言えば、新潟県内でそれができるのはうちしかないと思い、これをなんとか実現させなくちゃと思いました。(佐藤社長)。」

倉又さんにとっても、鈴木コーヒーの本社で社長自らが対応してくれたこと、そしてその日に出た結論は、忘れられないほどの驚きだったといいます。「佐藤社長の『一緒にやりましょう!』という力強い言葉。あの言葉が一番の支えになりました。」と倉又さん。この日を起点に鈴木コーヒーの長岡支店の一角を改装してカフェを作ることが決まっていき、オープンに向けた準備が進んでいきました。

# コンセプトは  
「目で見えてわかるカフェ」

店名は、実店舗を持つ前は「のびのびカフェ」の名でイベントに出店していたことから、「NOBI」に決定。ロゴは指差しで注文できるカフェであること、コーヒーのあたたかな湯気をイメージさせるデザインに。お店の内装は「非日常感を感じつつ、ホッとできるオセア

ニアスタイルのカフェ」、「目で見て分かるカフェ」をコンセプトにし、コーヒーを淹れる場所は、お客さまのフロアより一段高く、店内全体が見渡しやすい作り。また手話での会話を妨げないよう、視界を遮るものを置かないようにし、すっきりと。メニューや注文用のボードの表示は、何より見やすさを重視。そして、お客さんと手話以外の方法でコミュニケーションをとるために導入したのが、指差しでの注文をスムーズにするサイニングボードです。「ネオスさんに作ってもらったサイニングボードのお陰で色々なお客さまが指差しでスムーズにご注文してくださるので助かっています(倉又さん)」。さらにお店の壁には簡単な手話をイラストで紹介。「ありがとう」「おいしい」「また来るね」。帰り際には、そんな手話を使ってみたくはなりません。

# 誰かの夢や勇気に  
つながるカフェに

オープン後の反響は思いがけないほどに大きいものでした。多数のメディアに取り上げられた他、全国各地、アメリカや台湾といった海外からも、ろうあの方がお店目当てに訪れるほど。「この間、大阪でのイベントに出店したのですが、その時に若い人から『ファンです』と言われて。その方もカフェをやるのが夢らしく嬉しくなりました」と倉又さん。そうした反響に佐藤さんも「一番理想的なのは、彼の姿を見て、障害を持った方でもビジネスができるんだと伝わること。彼が独立してカフェを開業したというのは、誰かに夢を与えられる、すごく勇気が出る話なんです」といいます。いずれ各地で、聞こえに関係なく、誰にとっても居心地のよいサードプレイスができていくかもしれません。「聴覚障害者・ろう者が心豊かで幸せな人生を送れる社会にする」という倉又さんの思いは NOBIを起点に波紋のように静かに広がっています。

NOBI by  
SUZUKI COFFEE  
公式 Instagram

NOBI by SUZUKI COFFEE (ノビバイスズキコーヒー)  
新潟県長岡市三和3丁目8-21(鈴木コーヒー長岡支店内)  
◎11時~18時(L.O.:17時30分) 因毎週水曜日、他不定休